緊急アンケート

Clinic × Safewing cath

セーフウイングキャス

人と医療のあいだに…
JMS

クリニックでも選ばれています、Safewing cath

緊急アンケート

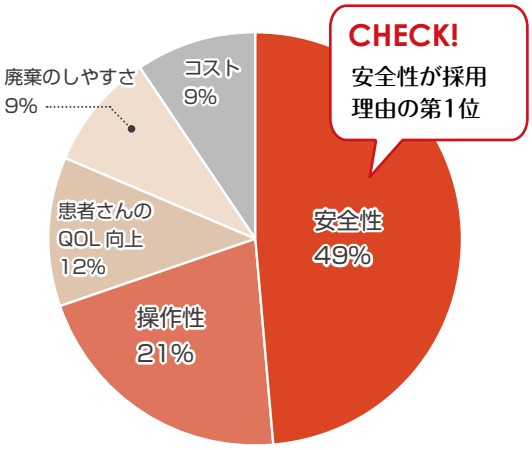
Clinic × Safewing cath

セーフウイングキャス

静脈留置カテーテル Safewing cath を採用されたクリニックに、その「魅力」について伺いました。

医療の機能分化が進み、プライマリーケアだけでなく、通院外来治療、在宅医療などクリニックが占める役割が多様化している中、多くのクリニックで輸液療法に Safewing cath（以下 SWC）をご使用いただいています。今回は、日頃の使用状況や製品評価についてアンケートを実施しました。

Q. 採用した理由は？



安全性
- 針刺しリスクが、従来の留置針より低い
- 血液曝露の心配がなく、安心
- 動いても、血液が漏れにくく安全
- 針が外に出ない安全構造

操作性
- ハブと延長チューブが一体型で便利
- 採血と輸液、両方がやりやすい
- 翼状針と同じ感覚で使える

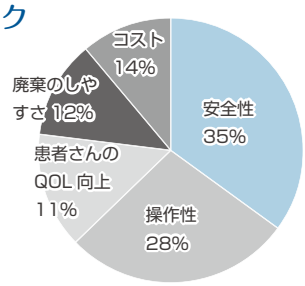
患者さんの QOL 向上
- 針が短く、痛みを軽減できる
- 長期留置ができ、安心感もある

Research α

安全性重視のクリニックがSWCに注目

器材を選ぶ際、安全性を重視するクリニックが、より SWC を選ぶ傾向にあることが分かりました。

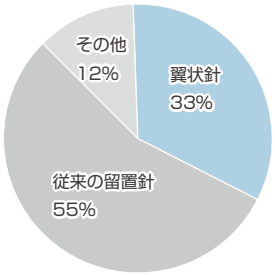
Q. 輸液治療器材を選ぶポイントは？



従来の留置針からSWCへの移行が多数

SWC に移行する前は、従来の留置針を使用していたという方が最も多く、全体の 55%を占めました。

Q. SWC を使用する前に使っていた器材は？



DATA: 回答施設プロフィール

現在 SWC を導入しているクリニックの医師・看護師を対象にアンケートを実施。

診療科目（複数回答）

※（）内は回答数

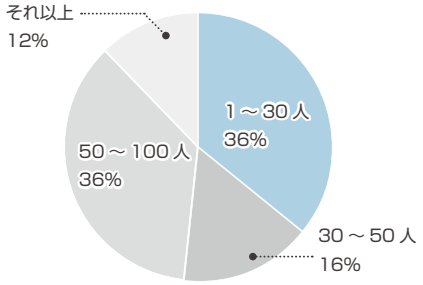
内科 (19) / 消化器科 (10) / 外科 (7) / 産婦人科 (4) / 呼吸器科 (3) / 循環器科 (2) / 小児科 (2) / リハビリテーション科 (2) / アレルギー科 (2) / 整形外科 (1) / 脳神経外科 (1) / 泌尿器科 (1) / 精神科 (1) / 麻酔科 (1) / 糖尿病科 (1) / 人工透析科 (1) / その他 (3)

輸液器材を使用されている診療科（複数回答）

※（）内は回答数

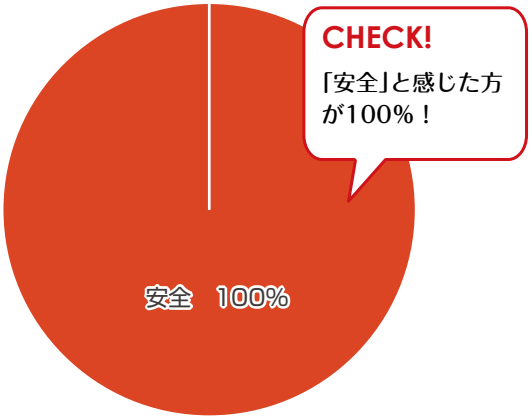
内科 (19) / 消化器科 (8) / 外科 (7) / 産婦人科 (4) / 整形外科 (1) / 脳神経外科 (1) / 小児科 (1) / 泌尿器科 (1) / リハビリテーション科 (1) / アレルギー科 (1) / 人工透析科 (1) / その他 (1)

外来および入院患者数（1 日あたり）



内科・外科・整形外科等で高齢の患者さんが多いとの声が多数

Q. 使用後の感想は？



CHECK!
「安全」と感じた方が100%！

良い点

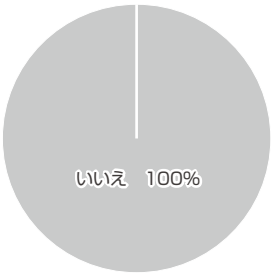
- 安全性、操作性、デザインともに良い
- 安全性が高く、感染予防に有効
- 血液に触れることがなく安心
- 使用した針が外に出ないので安心
- 翼状針と同じ手技で使えるので、初めから使いやすい
- 延長チューブ付なので、操作が清潔に行える
- 留置針のような内針抜去の必要がなく、便利

Research α

針刺し事故の減少に良好な結果

SWC を導入したことで、針刺し事故が増えたという意見は皆無でした。SWC による良好な結果であると考えてよいかと思われます。

Q.SWC で針刺し事故は増えましたか？



一部指摘のあった点

- 固定部が固く、長期留置には工夫が必要
- コストが安ければ、一般的な点滴にも使いたい
- 延長チューブ付だが、やや高い
- 内針の収納作業は、慣れが必要

これまでの器材との操作の違いや、コストに関して、不安を覚える方も

Q. 具体的な活用状況は？

活用する疾患・治療法・対象者

一般の点滴

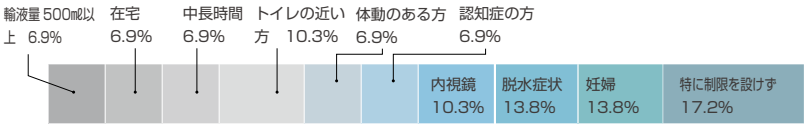
高齢者

分娩

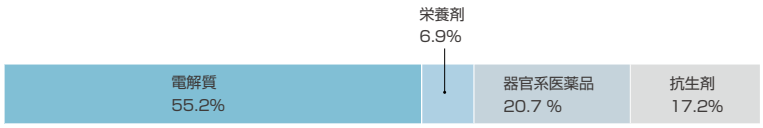
脱水症状

ほかにも…
- 血管の見えにくい（細い）人
- 点滴中のトイレ時　・内視鏡使用時　・糖尿疾患
- 在宅医療　・抗生剤使用時　・皮下輸液
- 採血と輸液を両方行う場合

主な活用状況



投与する薬剤（代表的な薬剤）



単独穿刺とプライミング後穿刺の実施比率

COMMENT:

アンケートの結果、SWC は「安全性」において高い評価を得ていることが分かりました。
針刺し事故が減少していることや、操作上の安心感が、そのような評価に繋がっているようです。
また、使われ方や、使用する人、使用頻度を見ても、これまでの留置針や翼状針に加え、
新たな静脈確保器材として違和感なく導入され、広く浸透してきていると言えます。

北口宏樹先生に聞く、クリニックにおける Safewing cathの有用性。

前頁での結果をふまえ、大学病院勤務当時からSWCの開発に深く関わっていただいた、桂クリニックの北口先生に総評をいただきました。

桂クリニック 医師
北口宏樹先生

操作方法とコストの正しい理解が、浸透のカギ

「今回のアンケートからも分かるように、SWCは安全性や操作性を重視するクリニックに選ばれているようです。血液曝露や誤穿刺など、輸液治療の問題を追求していくことで、結果的にSWCという選択肢が残るのでしょう。医療従事者は、操作性のより良いものを求めますから、新しい器材に対してかなり厳しい目で評価します。数回失敗しただけでも使わなくなりますから、SWCもそういった面をクリアしていくことが、これまで以上に浸透していく上での課題だと言えるでしょう。またコスト面に関して言えば、SWCが高いと感じる意見があります。確かに翼状針と比較するとコストが上がってしまいますが、留置針からの代替の場合は、延長チューブをつなげて使うケースが多いことを考えると、逆にコスト減が見込める場合もあります。使い分けをはっきりしてもらうことが必要だと考えます」

点滴が多いクリニックでの採用が顕著

「クリニックの診療科の中でも、とくに点滴の多い診療科においてSWCを採用しているケースが多いことが分かります。少し細かく見てみると、特有の状況と思われますが、血液内科の治療、認知症、訪問診療、産科などでも使用されています。また、脱水時や認知症、在宅、訪問診療では高齢者への使用が多いと考えます。これは、血管確保の際、22Gや24Gを使用することで輸液スピードもある程度保つことができるため、選択されているものと思われます。産科での使用や内視鏡時の使用においては、看護師が血管確保する際の操作性が翼状針に似ていることから浸透しているように感じました。プライミング穿刺のみでの使用頻度よりも他が多いのは、採血が留置針よりも行いやすいことや、溶血が起こりにくい構造のため24Gなどで穿刺しているためではないかと推察されます。また、固定の問題や、操作の慣れについての意見もありましたね。固定については皮膚に触れる部分の凹凸を無くしてフラットにするなど、患者さんにとってのQOL向上にもつながるよう、開発初期から形状も大きく変わっています。テープやドレッシングなどの特長を理解し、工夫すれば解決できるでしょう。
慣れについては、何でもそうですがやはり練習・経験により改善できると考えます」

固定の例

SWCの使用シーンはますます広がっていく

「SWCは安全性が問われるシーンで、より用いられることになっていくでしょう。化学療法での点滴や増加している高齢者への訪問看護などでは、看護師1人で行うことも多くなると思われます。また、今後の在宅医療では、皮下注射も頻繁に行われるようになるでしょう。その際、操作性と安全性が高く、患者さんのQOL向上の面でもメリットがあるSWCは重宝されるはずです。これから先、SWCの可能性はますます拡大していくと考えられますね」

セーフウイングキャスの詳細は
JMSホームページ→医療情報サイト
→診療支援情報室 よりご覧いただけます。

こちらよりセーフウイングキャスに関する動画をご覧いただけます。

JMS
http://www.jms.co
製造販売元
株式会社 ジェイ·エム·エス
お問い合わせ先
東京本社　第一営業部　TEL(03)6404-0601
〒140-0013　東京都品川区南大井1丁目13番5号　新南大井ビル

2015.04.05XA177-DS